

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

【第68回】初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）掲載
マナビー・メールマガジン掲載

晃宝小放課後子ども教室「ピノキオ」

～地域の中の子どもたち～

晃宝小放課後子ども教室コーディネーター 伊藤 三千代

晃宝小放課後子ども教室「ピノキオ」は、『地域の宝である子どもたちを、地域で育む場所を作ろう！！』と平成20年6月にスタートしました。教室の名前は童話『ピノキオの冒険』から取りました。

お爺さんが作った木の人形ピノキオは、いたずらが好きで勉強や努力が嫌い、でも優しいお爺さんや周りの人たちに助けられ、心優しい人間の少年へと変わっていきます。そんな物語の主人公のような心豊かでたくましい子ども達になってほしいと、教室立ち上げ時に地域の方から提案があり、全員一致で決まりました。

ピノキオ教室には『あいさつ・返事をきちんとする、人の話は静かに聞く、人の嫌がることはしない・言わない』というルールがあります。みんなが楽しく過ごすための大切な約束です。子ども達はこのルールの中で、地域の方と活動しています。「こんにちは…」元気な挨拶がないと「やり直し！！」、靴がそろえていないと「誰の靴?!」と指導され、宿題を見ては「もう少しきれいな字で書きましょう!!」と注意され、自分勝手に他人に嫌な思いをさせたらものすごく叱られます。そんな口うるさく、厳しいおばちゃん達もいる教室ですが、毎回懲りずに参加してくれるかわいいピノキオっ子達です。子ども達は元気に遊び、その中でお互いに刺激しあい、生きるために必要な力を身につけながら成長してくれています。

ピノキオ教室では教えてくださる地域の皆様のご協力のお陰で、工作教室やダンボールハウス、農園活動（今年はポップコーン）、グランドゴルフ、お習字教室など、子ども達は様々な体験・交流・学習活動をすることができます。時にはジュニアリーダーの中学生達が遊びに来てくれて、一緒に活動をしてくれます。地域の人や年の離れた友達との繋がりが、ピノキオ教室では生まれています。

そんなピノキオ教室を子ども達は楽しみにしてくれて、「またあの活動がやりたい」「○曜日と○曜日は塾だから、ユニホックは○曜日をお願い！」など、いろいろなリクエストが出てきます。スタッフも子ども達と楽しく過ごすことができ、子ども達の成長を見られることを、嬉しく思っています。また、そんなスタッフと活動できることをとても幸せに思います。

（初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第215号に掲載)

（マナビー・メールマガジン第42号に掲載)